

課題名 列状間伐の2回目の伐採方法について

会津森林管理署 高鷲 淳一
角川 美咲
湊森林事務所 高柳 修延

1 課題を取り上げた背景

国有林では、生産性が高く、かかり木の発生が少ない列状間伐を推進していますが、その伐採方法は、2伐4残がほとんどです。

現在、2回目の間伐を迎える時期となりましたが、実施例が少なく、どのように行うのが明確ではありません。疎開幅が均一になるよう工夫しながら、間伐効果を高めた、効率性の高い間伐方法を模索する必要があると考え、この課題に取り組みました。



図1 列状間伐実施林分（沼尻山国有林197い林小班）

2 具体的な取組

1回目の列状間伐実施林分を対象に2回目の間伐方法について、いくつか考えられる例を挙げ、事業体に聴き取りを行い、比較・検討しました。

また、林分状況を把握するため、オルソ画像を活用し、立木等の位置を示した図を作成し、2回目の間伐実施後の推定図を作成しました。



図2 オルソ画像より作成した残存立木位置図

併せて、オルソ画像を用いた、材積把握の検証を行いました。

3 取組の結果

考えられる伐採方法の中から、採用の適否を判断できるよう、検討表を作成しました。

オルソ画像を活用することで、残存立木や森林作業道等の位置を把握することができ、将来の施業実施に役立つ可能性があることが分かりました。

4 まとめ

人工林の多くが利用期を迎え、搬出間伐が盛んに進められています。間伐を進めるためには、高効率、高生産性、高い労働安全性が求められており、その要求に対応した列状間伐を推進する必要があります。

今までに実施した1回目の列状間伐を完結させるため、2回目の間伐方法を確定させることが喫緊の課題です。

今回検討を行った林分以外の列状間伐実施林分についても、2回目の間伐をどのように進めるのか、引き続き取り組むことが必要と考えます。